

オーディオ プロファイル

オーディオプロファイルには、入力セクションと出力セクションがあります。利用可能なプロパティ、オプション、および設定範囲はデバイスモデルによって異なります。デバイスは1つまたは複数のオーディオプロファイルを持つことができます。例えば、MCXは2つのプロファイルを持ち、2つの入力ソースを素早く切り替えることができます。

入力

入力ソース

利用可能な入力、またはテストトーンのいずれかを選択できます。利用できるオプションはデバイスモデルによって異なります。

オプション

- Disabled
- Headset
- Front Mic
- Line In
- 375 Hz
- 1 kHz
- 1,2 kHz
- 2,5 kHz

入力ゲイン

オーディオ入力のゲインを設定できます。これは最も重要な設定のひとつです。ゲインを高く設定しすぎると音声が歪み、低すぎるとS/N比が低下します。マイクに向かってはっきり話したときに、信号が0dB付近になるように設定してください。





適切なゲインの設定



歪みやクリッピング、S/N比の悪化を防ぐために、適切な入力ゲインとコンプレッションの設定が重要です。

- 適切な入力ソースを選択します。
- コンプレッサーとゲートをオフにします。
- 適切な音量で、十分に近い距離からマイクに向かって話します。
- VUメーターが白線（0dB）付近になるように、ゲインを上げ下げします。
- 声の大小に関わらず、VUメーターがオレンジのゾーン（-12 dB ～ 6 dB）内に収まるように音量を調整します。
- 声のダイナミックレンジが大きすぎる場合は、コンプレッサーを有効にします。
- バックグラウンドノイズをカットするために、ゲートを設定できます。ただし、小さな声で話した時にゲートが閉じてしまわないよう注意してください。



入力 コンプレッサー

コンプレッサーは、入力信号の音量の大きい部分を抑えることで、信号のダイナミックレンジを縮小します。これにより、歪みが発生しにくくなります。コンプレッサーを有効にすると、リリースタイムを設定できます。



オプション



- Off
- Fast decay = 300ms
- Medium decay = 1,2s
- Slow decay = 8s

入力 ゲート スレッシュホールド

ゲートは、設定したスレッシュホールドを下回ると音声のカットします。これにより、インカムシステムを静かで落ち着いた状態に保つことができます。適切に設定されたゲートは、ユーザーが話しているときだけマイクを「オン」にし、話していないときはマイクをオフにします。



オプション



- Off
- -50dB
- -45dB
- -40dB
- -35dB
- -30dB
- -25dB

入力 ゲート ホールド

オーディオ信号が設定したスレッシュホールドを超えるとすぐにゲートが解除されます。ゲートホールド機能で、リリースタイムを設定できます。適切なスレッシュホールドを設定することで、ゲートの動作はほとんど気にならなくなります。このオプションはゲートのスレッシュホールドが「OFF」でない場合にのみ有効になります。



オプション



- Fast 250ms
- Medium 1s
- Long 2,7s
- Extra Long 4s



ゲートの設定方法

- スレッシュホールドを「Off」に設定します。
- 適切な入力ゲインを設定します。
- ゲートホールドを「Fast」に設定します。
- バックグラウンドノイズがちょうど遮断されるようにゲートスレッシュホールドを設定します。
- ゲートのホールドタイムを適切な長さに設定します。

ヘッドセットのバイアス電圧

バイアス電圧とは、ヘッドセットの**エレクトレットマイク**に電力を供給するためにオンにできる、2.5Vの微弱な電圧のことです。



オプション



- OFF：バイアス電圧は供給されません
- ON：バイアス電圧が供給されます
- AUTO：トークが有効なときのみバイアス電圧が供給されます

マイク電源

マイク電源は10Vのファンタム電源で、フロントパネルのマイク入力に接続されたコンデンサーマイクに電源を供給するためにオンにすることができます。



オプション



- Off：ファンタム電源を供給されません
- On：ファンタム電源が供給されます
- Auto：トークが有効なときのみファンタム電源が供給されます

出力

サイドトーン

サイドトーンは、自分の入力音声を自分の出力にどれだけ返すかを示すものです。ハウリングを防ぐため、サイドトーンはフロントパネルのスピーカーには送られません。サイドトーンは確認用のフィードバックとして使用されます。ユーザーは自分の声をヘッドセットで聞くことで、チャンネルのトークが有効になっていることを確認できます。



レンジ



- Mute
- -24dB to 0dB

スピーカーディム

スピーカーディムは、このデバイスでトークが有効なときに、設定したレベルでスピーカー出力を減衰させます。これにより、スピーカーの音が入力に回り込むのを抑えることができます。このオプションは、内蔵スピーカーを搭載したデバイスでのみ利用可能です。



レンジ



- Mute
- -24dB to 0dB

スピーカーレベル

スピーカー出力のレベルを設定します。このオプションは、内蔵スピーカーを搭載したデバイスでのみ利用可能です。



レンジ



- Mute
- -48dB to 0dB

ヘッドセットレベル

ヘッドセット出力のレベルを設定します。



レンジ



- Mute
- -48dB to 0dB

ラインアウトレベル

メインユーザーからライン出力へ送られる音声のレベルを設定します。



ライン出力ミックス

ライン出力には、メインユーザーとライン入出力に割り当てられたグループの音声をミックスして含めることができます。



レンジ



- Mute
- -48dB to 0dB

メインレベル

メインレベルは、すべての出力に対するマスターとして機能します。
すべてのレベルを一括で素早く下げたり上げたりすることができます。

 レンジ 

- Mute
- -36dB to 12dB

リミッター

リミッターは、出力を設定したレベルに制限します。

 レンジ 

- OFF (0dB)
- -24dB to -6dB

🕒 2024年5月26日 🕒 2021年2月19日

👤 Henk-Jan Blok, Timo Toups



株式会社アートウィズ
〒134-0003 東京都江戸川区春江町5-11-2
Tel : 03-5667-9682